

経済統計・政府統計の理論と応用 2016¹

山本拓² & 国友直人³ & 川崎能典⁴
(共編)

2016年2月

¹文部科学省・科学研究費プロジェクト「経済統計・政府統計の理論と応用からの提言」(2015年度～)が2016年1月29日に東京大学経済学研究科において開催した研究集会における講演をまとめたものである。

²統計研究会

³東京大学大学院経済学研究科

⁴統計数理研究所

前書き

本報告書は、日本学術振興会・科学研究プロジェクト「経済統計・政府統計の理論と応用からの提言」(2015年度－2018年度、研究代表者：山本 拓)が、2015年1月29日(金)に東京大学小島ホールにおいて開催した2015年度の研究集会における講演内容をまとめたものである。なお本研究集会のオーガナイザーは、川崎能典、国友直人、山本拓が務めた。

本プロジェクトの目的は、経済統計・政府統計における主要な課題の、技術的および制度的問題を、統計学的な立場から理論的・学術的に検討し、具体的解決策を提言することである。経済統計、とりわけ政府統計は、経済・社会の動向を理解し、政策を実施、評価するためには不可欠な情報であることは言うまでもない。最近では evidence-based policy ということもよく言われ、政府統計の重要性は一般に広く認識されつつあると思われる。しかし、経済統計・政府統計への信頼性は、近年必ずしも増しているとは言えない状況である。経済社会の急激な変化に伴い、政府統計の質の確保が困難になりつつある。マクロ経済統計の側面では、GDP 統計などに代表されるマクロ公表系列の質と信頼性の問題、信頼性の高い将来人口の推計の問題、地域による経済情勢のばらつきの把握などの問題を挙げることができる。またミクロ経済データにおいては、統計調査をとりまくプライバシー意識の高まりから、調査精度の確保が難しくなりつつあるという問題や、情報開示と秘密保持の両立という匿名化問題などを挙げることができる。新しい統計学的知見の導入に関しては、日本の政府統計部局が分散化されているために、これまでは、個別の担当部局あるいはその時々担当者に個別に招かれた研究者によって知見や助言が提供されることが多かった。政府統計を巡る重要な論点について、担当部局をまたいでその知見が共有されることは少なかったと思われる。またそれらの話題が広く研究者間で議論されることも少なかった。そのような意味で、経済統計・政府統計の技術的・制度的問題点を、統計学的立場から総括的に検討していくという本研究プロジェクトは、一つの新しい方向性を目指したものである。

本プロジェクトの研究集会は、プロジェクトのメンバーと実際に経済統計・政府統計に作成者または利用者として携わっている方々との積極的な交流を提供することをその重要な目的の一つとしている。今回は本プロジェクトの第1回目の研究集会ということで、メンバーが今後の研究上の刺激を得ることを期待し、外部の方の報告が多くなるように構成した。

第1セッションでは、政府統計・経済統計を巡る最近の重要な問題が扱われた。すなわち、政府統計の役割として重要な位置をしめる2次利用の現状と課題、長期的な地方創生に関して、重要な要因となる府県別の人口変動の予測、さらにマクロデータとミクロデータの融合の方法についての新しい試み、が報告された。第2セッションでは、政府統計・経済統計に関わるかねてからの問題に対する理論的と応用からの接近である。すなわち、匿名データの開示リスクの評価の考え方と応用例、ならびに新しい季節調整法 X13 の特徴の解明とその評価である。第3セッションは、近年のその重要性が際だってきた小地域統計の問題に的を絞ったものである。さまざまな具体的な応用をふまえた理論的問題が明らかにされ、それらについての新しい理論的接近法が提案され、その応用可能性が報告された。

このような研究集会が情報交換ならびに刺激となり、経済統計・政府統計の今後の改善の一助になることを期待する次第である。

2016年2月

編者

研究集会・プログラム

科研プロジェクト「経済統計・政府統計の理論と応用」

日程：2016年1月29日(金)

会場：東京大学経済学部小島ホール2階

オーガナイザー：山本拓・国友直人・川崎能典

<挨拶>

13:00～13:05「研究プロジェクトの計画」山本拓

<セッションI> 政府統計・経済統計を巡る課題

Chair: 川崎能典

13:05～13:40「公的統計2次利用などに関わる取り組み」椿広計(統計センター)

13:40～14:20「地方創生と人口統計」金子隆一(社会保障人口問題研究所)

14:20～15:00「マクロデータとマイクロデータの統計的データ融合について」星野崇宏(慶応大学)

<休憩>

<セッションII> 政府統計・経済統計の理論と応用

Chair: 国友直人

15:10～15:50「匿名データの開示リスク評価例」星野伸明(金沢大学)

15:50～16:20「季節調整プログラムX-13ARIMA-SEATSについて」高岡慎(琉球大学)

<セッションIII> 小地域統計の理論と応用

Chair: 久保川達也

16:20～16:50「小地域推定問題に対する”モデルに基づくアプローチ”の新たな課題—海外の事例を通して—」廣瀬雅代(統計数理研究所)

16:50～17:20「正值地域データを解析するための変換モデルについて」菅澤翔之助(統計数理研究所)

17:20～17:50「空間重み付き経験ベイズ推定と死亡データへの応用」川久保友超(千葉大学)